

令和元年度第2回学校評議員会の実施報告書

学校名

岐阜県立可茂特別支援学校 校長 兒玉 哲也
所在地 美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成

評議員	板津 幹彦	NPO 法人プラス・ワン理事
	生田 靖子	可児市こども発達支援センター「くれよん」所長
	蔵澄 寿磨子	就労継続支援B型事業所あゆみ館施設長
	伊藤 秀樹	下米田地区自治会会長会副会長兼牧野区長
	三好 正司	元公立学校教頭
学校	兒玉 哲也	校長
	渡邊 英治	P T A会長
	大前 幸弘	事務部長
	吉村 智典	教頭
	広井 隆司	小学部主事
	浅井 洋子	中学部主事
	松岡 千年	高等部主事
	保 義博	高等部主事
	三尾 葉子	教務主任

3 会議の目的 今年度の学校運営等について報告し、地域住民や保護者から幅広く意見を求め、来年度の教育活動の活性化につなげる。

4 会議の開催 令和2年2月12日(水) 9:30~11:10
可茂特別支援学校 会議室

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

今年度も残り1ヶ月半となりました。運動会、学校祭等でお世話になり、色々ご助言をいただいたことを今後に反映させていきたいと思っております。今日は、各部の発表や、学校評価について報告させていただきます。地域に開かれた学校づくりということで、皆様のご意見をいただきたいと思います。

(2) 本年度の各部実践報告

ア 小学部 質問無し

イ 中学部 質問無し

ウ 高等部

質問 高等部 126人いるが、知的障がい割合が多いのか。

学校 県の特別支援学校でも全体の8割～8割5分が知的障がい者である。当校は少し低い、同じような割合である。

質問 知的障がい13人が就職しているが割合的にはどうか。

学校 特別支援学校の就職率は、学校によって差はあるが、全体の3分の1程度である。省庁によって違いがあるが、就労継続支援A型も就職としてカウントしている。

質問 卒業後は就職した後に学校に相談されることがあるか。

学校 現在も、学校に相談がある。障害者就業・生活支援センターと協力して支援を行っている。また、卒業後3年間は追指導を行っている。

意見 学校は相談によくのってくれているし、動いてくれている。障害者就業・生活支援センターとも連絡をよくとって支援にあたってみえる。

(3) 学校評価等の報告

意見 分からないという回答は、本当に分からないということである。

学校 例えば、いじめがあれば、適切に対応しているが、どうしても関係者だけになってしまうため見えにくい部分ではある。いじめ、体罰等、見えにくい部分では、どのように取り組んでいるのか、取り組みを発信していく必要があると思っている。

意見 年度の始めにアンケートの項目を保護者に周知しておいてはどうか。

学校 検討させていただく。

(4) 高等部作業製品の価格設定について(協議)

学校 作業製品の価格設定にあたっては、原材料費だけでなく消耗品費、機材費、旅費、役務費等を含めた経費等も考慮し設定を行っている。なお、比較商品とした福祉事業所の製品には人件費等も含まれているが、当校の場合は、人件費については不要であることを踏まえ、価格の設定を行っている。

質問 さをり織りは年間どの程度製作できるか。

学校 1週間で小マット1枚程度はできる。

質問 さをり織りは高価なので、ストラップ等を製作してはどうか。

学校 現在、試作中である。まだ、販売まで至ってない。

ランチョンマット小、ランチョンマット大は、他と比べて妥当な値段になっている。

学校 当校作業製品を美濃加茂市のふるさと納税の返礼品として使ってもらえないか取り組みを進めている。

◎新製品の価格設定については、すべての製品について適正との判断を受け、提案

のとおりとなった。

6 学校評議員の意見、質問

- ・ふるさと納税の返礼品は、思いのほか売れる場合がある。数を限定しておくとうい。
- ・注文が大量にある場合がある。お金の7割が福祉に還元されるのでよい取組である。
- ・可児市の子ども達を受け入れていただけてもありがたい。
- ・にこりん祭では、子どもたちが作ったものを販売していた。販売では、役割分担されていてとても生き生きと活動していた。
- ・卒業した後も、相談できる場があることはとても良い。
- ・学校評価も1, 2の部分の前年度よりも上がっていてよい。保護者は様々なニーズをもってみえるので、先生方で協力して指導していただけるとよい。それが、働き方改革にもつながるのではないか。
- ・中学部の取り組みの中にあつた、毎日着替えに取り組んでいることがよい。仕事をする時に、着替えは必要になる。家庭でもできるようにするとよい。また、最後までやりきる力をつけるような指導もよい。必要なことを、必要な時に実践してもらえるとよい。
- ・子どもについて職員間の共通理解があることが改めて大切であると思った。
- ・人権活動で行っている、「いいところ見つけ」の取り組みがよい。
- ・当事業所でも、ふるさと納税の返礼品の取り組みをしている。
- ・子どもを、みんなに知ってもらえるような活動がよい。
- ・にこりん祭では、ステージで発表する子どもも、見ている子どもも、みんなが一生懸命な様子がみられた。
- ・各部の取り組みについて、第三者評価はどのようにしているか、どこかに発表しているか。生徒の製品がよい。HP等で紹介して、活動の様子を全国の人に見てもらってはどうか。子どものはげみになり制作意欲につながるのではないか。
- ・学校は色々なことをしなくてはならなくなり、学校が抱えているものが多いのではないか。一人一人個別に合わせて、指導するのは大変であるが大変よくやってみえると思う。

意見 学校の活動の様子を知ってもらうこと、地域の人に知ってもらうのにはどのようにしたらよいか考えていってはどうか。学校というものは、敷居がたかいところがある。

学校 地域と連携した取り組みとして小学部のいちご狩りや中学部・高等部の企業実習等を行っている。校内でのカフェを今年は回数を増やした。カフェについては、現在は校内向けであるが、今後地域と連携していければと思っている。

質問 新聞に載ったことも、子どもたちは知っているのか。掲示はしていないのか。

学校 記事を校内に掲示したり、子どもに伝えたりしている。情報提供をして記事に知ってもらえる努力もしている。

意見 地域で生活できる子どもを育てることは大切なことである。長期休業、土日で、地域で見られるようなことができるとよいと思う。

学校 ここ10年で下校時に放課後ディサービスを利用する児童生徒が増えている。長期休業中も日中一時支援を利用して過ごしている子も増えてきた。福祉の関りが大きい。

意見 働き方改革について、月45時間以内にするのは大丈夫なのか。子どもに対する、指導の質が下がるのではないかと思ってしまう。

学校 12月より法改正があり、4月より時間外業務を45時間以下にする。それによって、人員が増えるわけではない。無駄な仕事は今もないが、精選して、業務分担の見直しをしていく。

質問 実際にどれくらい残業時間があるのか。

学校 月80時間を超える職員が数人いる。時期によってである。50～60時間を超える人については、今後どうしていくか考える必要がある。業務の中心になる先生がどうしても仕事が多くなってしまう。

7 会議のまとめ

各委員からは各部の学習活動全般において高い評価をいただいた。学校が手狭になっている状況や、教職員の労働環境、働き改革に伴う教育の質の担保について心配される声が目立った。学校と家庭・地域の連携のうえで、学校からの情報発信の工夫の必要を感じた。